

## 編集後記

「真実心」第三十一集をお届けします。平成二十一年度新入生対象の学長講話、「環境と仏教」を始め、宗教講座講話五編が収められています。若い皆さんは普段、宗教ということをほとんど意識することなく生活していらつしゃると思いますが、宗教講座をお聞きになることで、改めて自分が生きる意味を考えて頂けたらと願います。

よく日本人は無宗教だといわれます。確かに生後一ヶ月ほどで神社へ宮参りして氏子になり、結婚式はキリスト教のチャペルで神父に司式を頼み、死後は寺院の僧侶に葬儀を依頼します。このような多様な宗教の混在は、一神教の人たちから見れば「無宗教」ということになるのでしょうか。しかし私たちは、本当に無宗教なのでしょうか？

レオナルディ先生の「哲学から見た宗教」でも解説されているように、意識は物質ではありません。しかしその意識が宿る私たちの身体は物質からできています。宇宙

の始まりを説明する「ビッグバン理論」や多様性を説明する「弦(ひも)理論」のよ  
うな素粒子物理学は、物質の性質を説明しますが、物質ではない意識の存在を説明す  
ることはできません。ですから私たちは、般若心経に説かれている「色即是空空即是  
色」の意味を考えざるを得ません。般若心経は「色(有)」は同時に「空(無)」でも  
あると教え、受想行識亦復如是舍利子と続きます。「舍利子よ、そういったものと  
らえるのが五感であるが、それはまた「空」なのだよ」と説くわけです。というこ  
とは五感を備えている私たちの存在それ自身が宇宙であり、思惟する内容が本質であ  
るということではないでしょうか。

本学は真宗大谷派宗祖である親鸞聖人の「真実心」を校訓としていますが、真実心  
とは万物のつながりでもあります。人はどこから来てどこへ行くのか、また人の本質  
とは何か、私たちが宇宙とつながっていることを考えるきっかけとして宗教講座はあ  
ります。是非、積極的に参加して下さい。

最後になりましたが、お話しを頂きましたすべての先生方に感謝いたします。

(編集委員会)